

道徳科の基本的な授業力向上支援の実践研究

－授業づくり手引書の作成とその活用を通して－

学籍番号 179961

氏名 山崎 篤史

主指導教員 餅木 哲郎

1. 問題の所在と目的

これまでの「道徳の時間」から、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から特別の教科となり「特別の教科 道徳」が完全実施される。この大きな改革期を迎えている今日、道徳教育における量的確保、授業の質的転換に取り組むことが喫緊の課題であると文部科学省は指摘している。実習校も同じ課題を抱えている。本研究の目的は、実習校の道徳指導の改善である。そのために、実習校の道徳授業の実態を明確にし、課題を実習校教員と共有しつつ、課題解決の手立てを提案し、実習校教員の道徳科による基本的な授業力向上をめざすことである。

2. 研究

研究Ⅰ 実習校の実態の分析と課題把握

実習校の道徳教育の実態を把握し、課題を把握するために、学級担任10人を対象に質問紙によるアンケートと半構造化面接を実施した。その結果、道徳の授業をするのは好きだが、授業の流し方に不安があり指導法が分からない等の共通した特徴が見られた。また、半構造化面接から、授業が自己流になってしまっているなどの道徳授業に困り感のある教員が多いことが分かった。さらに、4人の教員を対象とした授業観察を行い、指導要領の内容と比較しながら逐語録を整理すると、共通した8つの実態が明らかになり、学習指導要領に記載されている道徳科の基本的な授業展開がなされていないことが課題として見えてきた。

研究Ⅱ 道徳スタンダード作成とその活用

実習校の道徳授業の改善に資する「道徳スタンダードシート」を作成し、実習校教員がシートの活用を通して基本的な授業展開への理解が深まり、どの学級でも共通した道徳授業が進められることを目的とした。

まず、道徳のスタンダード化を進めている中学校を視察し、そこで使われているスタンダードシートをモデルに、実習校の課題を解決できる道徳スタンダードシートを作成した。次に、活用の仕方に関する校内研修会を実施した。その結果、参加した教員が基本的な授業展開ができるシートであることを理解し活用を始めた。さらに、報告者が道徳スタンダードシートを使ったモデル授業を全学級で行うとともに、スタンダードシートの活用についてのアンケートを

実施した。スタンダードシートを活用することで、多くの教員は基本的な授業展開は意識してできるようになった。一方、発問の作成や問題解決的な学習を含む多様な指導法から選択して授業を組み立てることは教員にとって難しいことが明らかになった。

研究Ⅲ 授業づくりの手引き作成とその活用に向けて

研究Ⅱで残った課題の解決に向けて、道徳スタンダードシートを発展させ、発問や多様な指導法の選択に着目した「道徳授業づくりの手引き」を作成することを目的とした。まず、47都道府県、20政令指定都市が発行する道徳に関する資料の調査を行なった。さらに、発問に関する文献の研究を行なった。文部科学省が質の高い指導法として示している、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の指導法を取入れ、更に、永田（2014）が提唱する「テーマ発問」を加え、4つの指導法から選択できるように改良した。これらを取入れ「道徳授業づくりの手引き」を完成させた。

研究Ⅳ 授業づくりの手引きを活用した授業の展開

道徳授業づくりの手引きの活用に向けた校内研修会を行い、さらにすべての担任が道徳の公開授業をすることで、実習校教員が「手引き」を活用した授業を行うことができるようになることを目的とした。

公開された全授業を分析、考察した結果、導入、展開、終末の基本的な授業展開は全学級で行われていた。また、中心場面を明らかにした発問についても全学級できていた。しかし、多様な指導法から指導方法を選択し発問を考えることに関しては、問題解決な学習や体験的な学習を取り入れるまでには至らず、さらに研修・研鑽が必要であることが分かった。

研究Ⅴ 教師の意識調査からの変容

1年間取組んできた校内研修会、道徳スタンダードシート、授業づくりの手引きを通して、実習校教員の道徳科授業に対する意識の変容を明らかにするため、学級担任10人を対象に4件法による質問紙調査を行った。顕著な回答として「昨年に比べて今年は、自分なりに道徳科の授業力が向上したと思いますか」の設問に対し、10人中9人の教員が肯定的な回答をしており、「授業づくりの手引きは活用しやすいですか」の設問に対しては、ほとんどの教員が肯定的な回答をしている。手引書が活用しやすいと回答した教員は全員が「昨年に比べて今年は自分なりに道徳科の授業力が向上した」と回答している。これらからも、スタンダードシートや手引書の活用が実習校の道徳科の授業力向上に効果があったと考える。

3. 総合考察

「『道徳スタンダードシート』の作成、校内研修会、教員の実践」では、導入、展開、終末の基本的な授業展開が定着することが明らかになり、「『道徳授業づくりの手引き』の作成、校内研修会、教員の実践」では、基本的な授業展開に加え、中心場面を明らかにすることで的確な中心発問を考えることが定着することが明らかになった。これらの2つのパッケージが相互に働いた結果、多様な指導法の効果的な活用には課題は残るが、本研究の目的である実習校教員の基本的な道徳授業力向上が達成したと考える。